

## 第 23 回 ちゅうでん教育振興助成（2023 年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	愛川町支援グループ「絆」
コース	団体研究コース
活動・研究のテーマ	AI を活用した持続可能なリライト教材の作成

#### I. 目的

愛川プロジェクトと銘打った愛川町のインクルーシブ教育は「地域の子どもたちに対応できる学校を作る」を目標にダイバーシティ教育の推進と AI を活用した個別支援の実践を続けている。また、最近では JICA 横浜とフィリピン大使館に協力を仰ぎ、フィリピンの学校とオンラインでつなぐ授業も計画され実施した。その背景として本地区は、神奈川県北部にある人口約 4 万人の地方都市で 1980 年代から外国からの労働者を集い、町にはいくつかの外国移民のコミュニティがある。その当時は中南米のスペイン語圏からの移住が多かったが、現在では東南アジア系の外国人世帯が増えてきている。愛川町は外国籍の国の種類は 20 を超え言語も主だったもので、スペイン、ポルトガル、タガログ、中国、カンボジア語と多岐にわたる。

2021 年の統計によると 18000 世帯中 1300 世帯が外国籍世帯。人口の 6.6.%強が外国に関わる家庭である。学校からの保護者への連絡は日本語協力者の数に限りがあるため、やさしい日本語版や翻訳アプリで作った通知文、子どもたちのテスト・教材のプリントはルビを振ることで対応している現状がある。生活言語を習得している子どもでも、日本語特有の言い回しや学習言語で躓いてしまう子どもたちが多くいる。今までも教科書を平易したものを作成していたことがあるが、多岐にわたる言語の壁と学習言語の翻訳の難しさと持続可能な取り組みとするのが難しかった。そこで着目したのが生成 AI を活用した文書作成システムである。AI を活用することでだれでも簡単に必要な時に必要な教材が作れるのではと考えた。生成 AI を活用して、使える通知文、使える教材を持続可能な活動として作ることができないか考えた。外国につながる子どもたちを受け入れている学校では、小学校国語科の文章の読み取りでは、語彙力や読解力に個人差がみられる。日本語を母語としない JSL 児童に対する日本語学習支援の 1 つにリライト教材がある。リライト教材は、教科書教材の文章表現をやさしい日本語に書き換えたものであり、通常は教員が作成する。本研究は、日本語話者の児童がリライト教材を作成する学習をおこなうことで、作成した児童の語彙力・読解力の向上に効果があるか、また、リライト教材をつくる際に相手意識をもたせることで、JSL 児童の困り感の理解を促進する効果があるかについて明らかにする。どこの現場で無理なく使えるリライト教材作りができたならば、活用されるのではないかと思ひ、使えるリライト教材の作成および活用を研究目的におく。その中で、無理なく作成するためにも生成 AI の可能性を試みてみたのが本実践研究である。

#### II. リライト教材の作成について

(リライト教材作成の手順)

- 1 リライト教材の種類を決める。
- 2 作成する教材の「国語の目標」を決める。目標に照らして教科書のどの部分が大切かを考え傍線を施す。
- 3 「日本語の目標」を決める。リライト教材でどんな日本語の語彙や表現、文型を教えるかを定める。
- 4 2 で傍線を施した部分を中心に、全体の流れを考えながら子どもの日本語力にあったリライトを作成する。

(リライト教材を作るにあたって指針)

教材作成にあたっての留意点「表現はやさしく、学習内容は相当学年レベルで」

- 1 一文の長さは、5 文節程度を目安に作成する。
- 2 文体は、レベル 01 は敬体(です、ます)で、レベル 2 は教科書と同じ文体で作成する。
- 3 レベル 1 では単文を中心に、複文は 2 文に分けて接続詞を使う。
- 4 使用語彙は、レベル 1 では動作化・視覚化できる語彙を多く使う。レベル 2 では、言葉で説明できる語彙も使う。

### Ⅲ (研究および実施の実際)

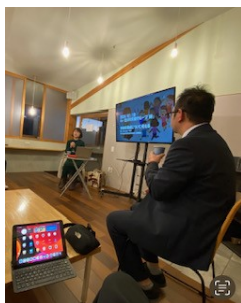
- |                   |                              |
|-------------------|------------------------------|
| 1 計画推進プロジェクト      | 全体計画の推進、情報提供、渉外、講演会担当        |
| 2 日本語支援 プロジェクト    | 日本語支援者との連絡、文法、オノマトペの修正       |
| 3 学習支援 リライトプロジェクト | AI ツール(チャット GPT)の学習支援法の情報共有  |
| 4 国際文化教育プロジェクト    | 国際文化との融合、国際的背景理解の推進 道徳観の比較研究 |
| 5 愛川プロジェクト推進      | JICA 滝坂氏による特別プロジェクト          |

#### 1 計画推進プロジェクト

愛川町教育委員会、神奈川総合産業高等学校 大谷氏、横浜国立大学院 橋本氏、和歌山大学 米澤氏  
JICA 滝坂氏と相談し、国際 CO の各学校への配置と日本語支援の方法、心理的安全性の確保等をテーマに  
講師選定をした。

2024年1月 神奈川総合産業高等学校教諭 大谷千晴氏 (クラスメイトは外国人シリーズ著者) 講演

2024年2月 和歌山大学教授 米澤好史氏 (愛着形成のための安全安心基地) 講演



#### 2 日本語支援 プロジェクト

日本語支援者との連絡、文法、オノマトペの一覧表、カードの作成。日本の風土文化を子どもたちに伝える試みを行った。

#### 3 学習支援 リライトプロジェクト

AI ツールの学習支援法の情報共有。ChatGPT4.0 を活用し、2年生「スーホの白い馬」5年生「大造じいさんとがん」のリライト教材を作成。

#### 4 国際文化教育 プロジェクト

国際文化との融合、国際的背景理解の推進、道徳観の比較研究

#### 5 愛川プロジェクト推進 JICA 滝坂氏による特別プロジェクト

日本からフィリピンの学校のオンラインでの授業参加

### Ⅳ (まとめと今後の課題)

学級での一斉授業よりも先に日本語教室等で学習を前もって行う、いわゆる先行学習としてのリライト教材による学習を実施し、その実践後、一斉授業を受けてからの児童の感想に着目し分析することで、学校現場でできるリライト教材の活用における支援や工夫について明らかにするようにした。また児童の感想からオープン AI を使ったリライト教材づくりのプロンプトの工夫や実際に使用してみたの支援者および学習者からの感想をまとめてみたところ次のような課題が出てきた。今後の研究につなげていきたい。

【課題1】先行学習としての読み聞かせはどのように行われているのか。(どのようなやり取りが行われているか)

【課題2】先行学習としての読み聞かせはどのような支援が行われており、それは効果があるのか、ないのか。  
先行学習としての読み聞かせに期待できる効果は何か。

【課題3】本を選んだ理由と読み聞かせ後の反応や感想と一致するのか。選書の際に考慮すべきことは何か。